

福井大学医学部医学科分子病理学領域では、医学系研究倫理審査委員会の承認を得て、下記の研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。なお、対象に該当すると思われる方で、本研究に関するお問い合わせや研究の対象となることを希望されない場合は、お申し出下さい。研究期間内にご連絡頂いた時点より研究対象から除外することを保証致します。

平成 27 年 11 月 福井大学医学部医学科分子病理学領域

【研究課題名】

透析アミロイドーシスの病理組織学的解析

【研究機関】

承認日より西暦 2017 年 3 月 31 日

【研究の意義・目的】

透析アミロイドーシスを含むヒトアミロイドーシスの発生機序に関しては、主としてアミロイド前駆蛋白質の立体構造変化によるアミロイド線維形成メカニズムについて検討されて来た。しかし、それだけではアミロイド沈着部位の特異性や、発症に関与するリスクファクターを明らかにするには不十分であると考えている。

アミロイド沈着部位には様々な種類の共存物質（生体分子）が存在することが知られており、われわれはその一部がアミロイド線維の安定化に作用し、結果的にアミロイド沈着を促進するリスクファクターとなりえる可能性を *in vitro* 試験において示して来た。

本研究の目的は、対象とする透析アミロイドーシスを実際に発症した患者のアミロイド沈着部位に、われわれが注目しているグリコサミノグリカン及びプロテオグリカンとβ2-ミクログロブリンアミロイド線維がどのような形態で共存しているかを免疫組織化学的に観察し、アミロイド線維形成のリスクファクターとなりえる物質を探索することにある。本研究により発症機序の一部が明らかになり、発症の予防法や治療法を確立する端緒となることが期待される。

【研究対象】

2007 年 4 月以降、福井大学医学部附属病院整形外科で手術を受けられた維持透析患者 25 名

【研究項目】

- ①手術で摘出した病変部パラフィン包埋標本から薄切切片を作製し、H&E 染色、Congo red 染色、およびβ2-ミクログロブリンの免疫染色によりアミロイド沈着部位を確認する。
- ②アミロイド沈着が確認された症例について、数種のグリコサミノグリカン（ヒアルロン酸、ヘパラン硫酸、コンドロイチン硫酸、ケラタン硫酸等）およびプロテオグリカン（パーレカン、デコリン、バイグリカン、ルーミカン等）、並びに関連共存候補物質の免疫染色を実施し、アミロイド沈着部位での共存の有無や存在形態を観察する。
- ③一部の症例に対して LCMSMS を用いたプロテオーム解析を実施し、上記免疫染色結果の妥当性を評価すると共に、未知のアミロイド共存蛋白質を探索する。

**【研究期間後の試料の取り扱い】**

研究に関する試料等は、研究期間終了後も2022年3月31日まで匿名化した状態で保存させていただきます。尚、保存させて頂いた試料等を用いてあらたな研究を実施する際には、倫理審査委員会に再度計画書を提出し、承認を得ます。

**【研究組織】**

研究責任者	内木 宏延	分子病理学	教授
研究分担者	山口 格	分子病理学	特別研修生
	大越 忠和	分子病理学	助教
	小久保 安朗	整形外科学	講師

**【本研究に関する問い合わせ先】**

本研究はデータのみ扱い、個人情報 を 厳重に保護して行います。なお、本研究の内容や個人情報に関するお問い合わせ等がございましたら、下記へご連絡下さい。

○問い合わせ窓口 〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3

福井大学医学部分子病理 内木宏延

電話：0776-61-8320 Eメール：naiki@u-fukui.ac.jp

○苦情の窓口 〒910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3

福井大学総務部 松岡キャンパス総務室 学術支援係

電話：0776-61-8614